

令和4年12月8日(木)現在

【 果 樹 】

リンゴや生柿の入荷量減少により、果実全体量は減少となっている。

干し柿は、各産地から入荷しているが、最大量は長野産「市田柿」となっている。

あんぽ柿で競合する山梨産は、例年は年内販売が中心で年明けは少ないが、今年は原料柿が豊作の為、例年より年明けの残量が多くなる見通し。

<リンゴ>

休市明けで入荷量が多いが、販売中の荷も多く荷動きは引き続き鈍い状況となっている。

「サンふじ 10Kg レギュラー」

特秀 28玉 3,700~3,000円 秀 3,000~2,200円 ○秀 2,000~1,800円 赤秀 1,800~1,500円
特秀 32玉 3,300~3,000円 秀 2,700~2,300円 ○秀 2,600~1,800円 赤秀 1,800~1,500円

「サンふじ(葉取らず) 14玉」

1番手(天一) 3,200円 2番手(紅一) 2,800円 3番手(特一) 2,000円 4番手(秀一) 1,500円

<あんぽ柿>

果実全体の荷動きが鈍い中で、あんぽ柿は12月下旬~年末の需要期前ということもあり、荷動きは徐々に出てきているがまだ本格化はしていない。

「平核無 200g トレー」

特秀 2L 380~350円 青秀 2L 330~320円

「蜂屋 230g トレー」

蜂屋 3L 450~430円 青秀 3L 430~400円

【 野 菜 】

月替わりで一部商材には特売需要が見られたものの、それまでの気温高から野菜全般には白菜など、重量野菜の潤沢入荷が続いたことから引き続き軟調な相場帯での販売となった。

全国的に12月5日頃より気温が低下したため、葉物類中心に入荷量は微減に転じ、今後も減少傾向は続く見込み。流通在庫が減少となり次第、相場は底上げ基調になる見通し。

いちごは、11月下旬より増加傾向となり、年内最需要期のクリスマスに向けて今後は売場も拡大となっていく。

<いちご>

量販店の売り場の拡がりもあり、場内の残荷は少なく、他品目と比べるとスムーズな販売となっている。今後の天候、入荷量を見ながらになるが、12月15日頃からは業務向けの引き合いも出てくることから、需要期に向け相場を上げながらの販売となる見通し。

@L 500円 ~ 450円 A 450円 ~ 420円

<に ら>

引き続きにらの入荷は横ばいで少ないままとなる見込み。葉物類全般に入荷減少し、販売環境は改善される可能性はあるが、他品目へ注文を奪われないために相場は保合となる見通し。

@AL 95円 ~ 75円

<春 菊>

引き続き春菊の入荷量は横ばい程度となる見通しの中、週末需要等による引き合いが見込まれ、相場は保合だが、荷動きは改善傾向となる見通し。

@単価: A 100円 ~ 70円